

やさしさ と ぬくもり のある学校

- 目標 ○なかまと共に学び、基礎学力を身につけ、創造力のある児童
- 心身の健康を考え、体力向上をめざす児童
- 人を思いやり、感謝する心を持ち、親孝行する児童
- 分かる授業を創造し、児童をやる気にさせる教職員

アンケートは4段階評価で実施 (A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満)

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3)			自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
				R4	R5	変化				
① なかまと共に学び、基礎学力を身につけ、創造力のある児童	基礎・基本の学力向上 [研究・学習]	読む力を高める指導の充実を図る。★【読解】	教	93%	93%	→0.5%	A	A	【研究】 ○児童の学力を向上させるために、教師は試行錯誤しながら授業改善に努めていることが結果から読み取れる。個人ではもちろん、学年間での教材研究の共有や、教科担任制の導入が背景として考えられる。 【学習】 ○今年度も、全国学力・学習状況調査等の結果(4年～6年)から、学習指導部で、児童の苦手としている問題を精査し、分析をして授業改善プランを教職員に共有した。 ○ICT機器を授業に活用することで、授業の選択肢がひろがっている。	【研究】 ○児童の学力向上や授業の資質向上につながるよう研究通信を発行していく。 ○国語に関する掲示物を作成し、教室や校内に掲示することで児童の読書力を高めたり、学習の見通しをもちやすくしたりする。 ○学年で児童の実態や取組を共有する。 【学習】 ○引き続き、学力テストの振り返りを行い、教職員に共有していく。児童の課題やつまづきを考察することで、授業のスキルアップを図る。 ○情報モラル教育も推進しながら、適切にICTを授業で活用していく。
		基礎基本の学力定着に向けて指導を充実させることができた。	教	95%	100%	↗4.7%	A			
		学習内容の定着を目指す。 日々の教育活動で学習内容が定着できるような取組が行われている。	保	84%	88%	↗3.5%	A			
	学習意欲の向上 [研究・学習]	児童が話をよく聴き、意欲的に学ぼうとする態度を育てる。	児童が互いの話を聞き合い、意欲的に学ぼうとする態度を育てた。	教	93%	95%	→2.0%	B	A	【研究】 ○授業公開の機会を設けたり、学年で教材研究を行ったりするなど、教員の指導力向上を図る。 ○校内研修を行い、発問や板書の仕方等について研究を深める。 ○児童が互いの意見を聴き合い、自分の考えを深められるよう考えを整理する時間や、ふり返りの時間を確保する。また、児童が友達の意見から自分の考えを深めることができるよう教師の発問や声かけ等を工夫する。 【学習】 ○昨年度の反省より、自主的に家庭で学習する児童と、そうでない児童が二極化している傾向が見られるため、家庭で自ら学習できるような内容を部内で考え、「自主学習メニューのいわき」を作成した。数値の上昇から意欲的に取り組んでいる児童が増えたと考えられるが、学習意欲の低い児童も多いため事実である。
			先生の話や友だちの意見を聞き、授業に意欲的に参加していますか。	児	94%	95%	→1.4%			
			意欲的に学習に取り組んでいる。	保	67%	73%	↑5.9%			
		家庭学習(宿題を含む)に取り組む児童を育てる。	児童の実態に合わせて家庭学習(宿題を含む)の内容や出し方を工夫することができた。	教	86%	93%	↑6.5%	B		
			毎日、家庭学習(宿題を含む)をしていますか。	児	94%	96%	→1.7%			
			毎日、自分から家庭学習(宿題を含む)をしている。	保	72%	73%	→0.8%			
	思考力・判断力・表現力の育成 [特活]	互いに認め合える集団を実現する。	児童が意見を伝えられるように取り組んだ。	教	95%	100%	↗4.7%	A	A	○一人一人の考えや意見を、口頭で発表するだけでなく、ロイノートなどICTを活用し、学級の児童全員の意見をみんなて共有できるようになったことで、A評価につながったと考える。 ○学校行事や委員会など、異学年で活動できる場面を増やしていく。 ○学級会を通して、自分と異なる意見を排除するのではなく、「折り合いをつけた話し合い」ができるよう指導・支援していく。
			互いに認め合う集団を育成できた。	教	91%	98%	↑6.8%			
			友だちの意見を最後まで聞き、自分の意見を伝えることができましたか。	児	89%	91%	→1.1%			
一人一人の意見を大切にできる学級ですか。			児	92%	93%	→0.6%				
読書力の向上 [学習]	学校や家庭での読書習慣の定着を目指す。	読書の時間を確保し、児童に読書に親しませるようにしてきた。	教	88%	85%	↘-3.4%	B	B	○100冊読んだら賞状などの具体的な取り組みを決める。 ○ビブリオバトルをすることで友達からのおすすめ本を読む。 ○A週B週それぞれの図書室配当を決める。 ○音読カードや読書通帳の紙の形式を見直す必要がある。 ○学校での読書に関しては、朝読書・給食前後の読書の時間を確保を徹底する。 ○外部から、保護者向けに読書の大切さの講演をしてもらう機会がほしい。	
		図書だよりや読書カードを活用できた。	教	84%	75%	↘-8.7%				
		毎日、学校や家で読書をしていますか。	児	80%	72%	↘-7.8%				
		毎日、家庭で読書をしている。	保	52%	45%	↘-7.4%				

やさしさ と ぬくもり のある学校

- 目標 ○なかまと共に学び、基礎学力を身につけ、創造力のある児童
- 心身の健康を考え、体力向上をめざす児童
- 人を思いやり、感謝する心を持ち、親孝行する児童
- 分かる授業を創造し、児童をやる気にさせる教職員

アンケートは4段階評価で実施 (A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満)

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3)			自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策				
				R4	R5	変化								
② 心身の健康を考え、体力向上をめざす児童	運動好きな子の育成 【保体】	楽しみながら体力をつけることができる授業の工夫を行う。	児童が楽しみながら体力をつける工夫をすることができた。	教	95%	90%	↓-5.3%	A	A	○今年度は、運動会が低・中・高学年での2部実施になり、コロナ禍の体育活動の制限もなくなるといった変化があった。体育的行事への取組が普段の授業にも生かされたことで、子どもたちの結果に良い形で表れているのではないかと。その一方で、体育活動の制限がなくなったことにより、昨年度との違いから、授業の工夫が難しかった教員がいたのではないかと。	○体育的行事だけでなく、普段の授業からねばり強くやり通す心と身体を育むことを意識して指導する。 ○授業の始めに行うサーキット運動を通して、発達段階に応じた様々な動きを楽しみながら習得できるように、毎授業で徹底して実施するようにする。			
			体育の時間は積極的に運動していますか。	児	93%	96%	↗2.7%							
		生涯スポーツの基礎となる運動に親しむ態度を養う。	教	93%	93%	→-0.5%	A							
	健康・安全・食育の意識向上 【保体・生指】	正しい姿勢や基本的な生活習慣を意識し、自分自身の健康についての関心を高める。	姿勢や生活習慣に関する指導を通して、自らの身体を守り鍛える態度を養うことができた。	教	86%	93%	↑6.5%	B				B	【保体】 ○教職員の結果は、昨年度に引き続き改善されている。月に1度実施している『保健指導の日』が定着し、日頃の指導にも生かされるようになったからではないかと。反面、子どもたちの結果は変化が見られない。その場限りの指導で終わってしまっ、常に意識できるような状態には浸透していないのではないかと。 【生指】 ○右側歩行の取組も3年目を迎え、子どもたちの中にも「右側をゆくり歩く」という意識が浸透してきたと感じる。また、各学年でも独自の取組を行っていたことでも更なる数値の上昇につながったと感じる。	【保体】 ○姿勢に関する啓発活動を、保健委員会によるポスターなどで行う。 ○『ほけんだより』や二測定(体重測定)の機会を利用して、季節に関した保健指導や姿勢の達成状況の確認などを行う。 【生指】 ○雨の日の過ごし方について、学級会の話し合い活動を使って各学級でどのように過ごすかを決めておいたり、委員会を通じて雨の日の遊び方の提案をしていく。 ○廊下のラインと矢印を有効活用しながら指導を継続していく。
			「ピン・ピタ・グー」や「早寝早起き朝ごはん」はできていますか。	児	78%	79%	→1.6%							
		どんな時でも安全に過ごそうとする児童を育成することができた。	教	98%	90%	↓-7.7%	A							
	外遊びへの意欲向上 【保体】	体育の授業の初めに行ういわきサーキットや休み時間に行ういわ金ピックなどを通して、運動への意欲や体力向上を目指す。	自分や周りの人たちがけがをしないように、「教室では静かにすごす」「ろうかは右側を歩く」など安全に気を付けて生活していますか。	児	90%	90%	→-0.2%	A	C	○休み時間、子どもたちと一緒に遊んでいる教師の姿が昨年度同様多いように感じる。しかし、結果の大きな改善にはつながっておらず、継続した取組が必要だと感じる。 ○体育の授業の制限がなくなり、児童同士で関わり合いながら学べる機会を作る指導がしやすくなったため、教師・児童の結果がともに改善されたのではないかと。	○学期に1回、運動委員会による外遊びイベントを開催し、外遊びの楽しさや様々な動きのやり方を知る機会を設ける。 ○学級遊びや遊具の楽しい使い方などを啓発し、日頃外に出る機会の少ない児童が運動に親しむことができるきっかけを作っていく。			
			交通ルールを守り安全に気をつけている。	保	96%	94%	→-1.2%							
		子どもたち同士で動き方を覚え、自ら学ぶ態度を育てる。	教	86%	93%	↑6.5%	B							
	子どもたち同士で動き方を覚え、自ら学ぶ態度を育てる。	児	80%	83%	↗3.6%									

やさしさ と ぬくもり のある学校

- 目標 ○なかまと共に学び、基礎学力を身につけ、創造力のある児童
- 心身の健康を考え、体力向上をめざす児童
- 人を思いやり、感謝する心を持ち、親孝行する児童
- 分かる授業を創造し、児童をやる気にさせる教職員

アンケートは4段階評価で実施 (A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満)

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3)			自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
				R4	R5	変化				
③ 人を思いやり、感謝する心を持ち、親孝行する児童	進んで挨拶をする子の育成 [生指]	進んであいさつをし合う人間関係を大切にしたい学級づくりを目指す。	進んであいさつをし合うような人間関係を大切にしたい学級をつくりあげた。	教	86%	93%	↑6.5%	A	○数値としては上昇しているが、年々あいさつについては意識が低くなっており、学校全体で見てもあいさつの声のさみしさを感じる。結果と現実との差を感じる。	○挨拶をすることの大切さや良い効果について児童の発達段階に応じて具体的に示す指導を行う。また、教師・保護者主導ではなく、児童が中心となる挨拶の取組や楽しいイベントを実施する。
		家庭や地域でもあいさつができる児童を育てる。	家の人や地域の人に元気よくあいさつをしていますか。	児	85%	86%	⇒0.6%	B		
			すすんであいさつをしている。	保	72%	70%	⇒-1.9%	B		
	掃除をきちんとする子の育成 [生指]	清掃によって美しい学校環境を保持し、身の回りを清潔に整頓することができるような習慣を育成する。	教職員自ら掃除に取り組みながら、担当場所の指導を行うことができた。	教	91%	95%	↑4.3%	B	○掃除時間が短い中ではあるが、子どもたちは一生懸命掃除をしている姿が多く見られる。ただ、特別教室などは移動に時間がかかり、十分に掃除ができないことや1・6年掃除がなくなつてから、ぞうきんがけの仕方や無言清掃などの継承ができていないように感じる。	○無言清掃の徹底や特別教室の配当、掃除時間の拡大等、教員と児童でもう一度課題を共有・検討し次年度も進めていく。
			掃除の時間、余計な話をしないで掃除をしていますか。	児	82%	78%	↓-3.8%			
			学校は清潔で整っている。	保	79%	79%	⇒0.3%			
	きまりを守る子の育成 [生指]	年間目標を意識して守ろうとするなど、規律ある生活ができる児童を育てる。	教職員自ら掃除に取り組みながら、担当場所の指導を行うことができた。	教	74%	75%	⇒0.6%	B	○数値は上がっているものの、生活指導部独自のアンケートとの差を感じる。年間目標=キャッチフレーズということが子どもたちの中には一致しなかったように感じる。結果以上に子どもたちは日々意識している姿が見られる。	○新たな重点目標について、子どもたちが日々意識できる目標を設定し、部会や学年で共有しながら、共通した指導ができるようにしていく。
			年間目標を意識して行動していますか。	児	85%	82%	↓-2.6%			
			基本的な生活習慣の育成を図り、社会のきまりを守ろうとする態度を育てる。	教	98%	98%	⇒0.2%			
	人権意識・道徳性の育成 [人教・特支]	自分も他者も大切に集団を育てる。	児童の人権意識を高めるために、積極的に人権学習を進めた。	教	86%	83%	↓-3.5%	B	【人教】 ○各学期、各学年ごとに取り組んでいる人権学習を「いわきのなかま」に掲載できた。ただし、時間や内容に限りを感じられる。○友達との相互理解を目指し、様々な場面で起こる問題を解決しようとしたことが、良い評価につながった。	【人教】 ○年間3回の「いわきのなかま」配信を今後も続けていく。教師の人権感覚を養いながら、普段の生活場面での人権意識の高揚を目指したい。 ○「感謝」の取組を継続すると共に、「ありがとう」と言葉で伝えるだけでなく、伝え合いたくなるような雰囲気作りを意識して学級づくりを行っていく。
			学校は、自分や友達を大切にすることを育もうとしている。	保	88%	93%	↑5.0%			
		豊かな感性を育み、互いに励まし合い共に育つ人間関係をつくる。 ★【感謝】	他人を思いやり、助け合う気持ちや感謝の気持ちを育てている。	教	98%	98%	⇒0.2%	A	【特支】 ○学校行事や体験学習が少しずつ再開される中、主となる学習は行われるが、動機付けや振り返り、共有などの時間を計画的に取り入れる必要があったのではないかと感じる。 ○学級や学年を超えて児童とつながる機会が増えたことで、助け合う場面や感謝を伝え合う場面が増えたと考えられる。	【特支】 ○特別支援教育に関わることは、次年度も杉の子部会、推進委員会を通して各学年の取組や課題を定期的に共有しながら、各学年で振り返る機会と視点を発信していく。 ○すぎのこタイムなどの活動を継続し、お互いを理解するきっかけになるよう、異学年で関われる場を設ける。自分達の活動が誰かに感謝されたり喜ばれたりする活動であると実感できるように、年間を見通して台同学習を計画し、実施する。
家族や友達に「ありがとう」の気持ちを伝えることができていますか。			児	94%	97%	↑2.2%				

やさしさ と ぬくもり のある学校

- 目標 ○なかまと共に学び、基礎学力を身につけ、創造力のある児童
- 心身の健康を考え、体力向上をめざす児童
- 人を思いやり、感謝する心を持ち、親孝行する児童
- 分かる授業を創造し、児童をやる気にさせる教職員

アンケートは4段階評価で実施 (A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満)

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3)			自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
				R4	R5	変化				
④ 分かる授業を創造し、児童をやる気にさせる教職員	職務意識の向上 [教務]	時間厳守など服務規律を徹底する。	時間厳守など職務に係る義務を意識して行動することができた。	教	100%	98%	↘2.5%	A	A	○高い意識をもって行動できた。 ○「わかる授業」をめざし教材研究に取り組みながら、児童や保護者、地域等の願いや要望を真摯に受け止め対応してきた結果が100%となった。しかし、今後も持続していく必要がある。 ○昨年度よりも-2.5%下がったこともあり、今後も引き続き教員として自覚を持ち、資質向上に努めていかなければならない。そのためには、様々な研修等に進んで参加し、各自の資質をさらに向上していく必要がある。 ○今後も児童保護者、地域の願いや要望を真摯に受け止め、様々な場面において適切な対応ができるよう一人て悩まず、管理職・学年を連携を組んでいく必要がある。 ○自分本位の行動・指導にならないように、管理職や各主任へ報告・連絡・相談を徹底する。
		教員としてのプロ意識を常にもって行動する。	いかなる時も教員としての自覚をもって行動することができた。	教	98%	100%	↗2.3%	A		
	組織力の強化 [教務]	学年間の共通理解を図り、連携をとる。	様々な課題について、学年間の共通理解を図り、連携を取りながら進めることができた。	教	93%	95%	↗2.0%	A	A	○概ね高い数値となった。各学年100名以上の児童数を抱える本校では、学年間の連携・協力は不可欠である。現状の数字に満足することなく、各学年間の関係がより一層層固くなるよう、様々な事象に関して共通理解の徹底を図る必要がある。 ○定期的な部会の設定の効果もあり、昨年度より上昇した。各分掌がチームとなり、それぞれの思が有効に反映されるような各分掌となっていく必要がある。
		各学年や各分掌の取組を全職員で共有する。	各学年や各分掌の取組を全職員で共有することができた。	教	91%	93%	↗1.8%	A		
	地域との連携推進 [教務]	対人業務であることの自覚を高める。	対人業務であることの自覚をもって行動することができた。	教	100%	100%	→0.0%	A	A	○今年度も教員が自覚を持ち、保護者と家庭と連携・連絡をとり、信頼関係を積み重ねてきた。そのため、保護者が家庭との連携を適切におこなっている項目では、昨年度より8.8%上回ることもできた。 ○新型コロナウイルスが5類になり、人数制限も廃止したため地域の方々の教育活動への参加が増えた。今年度は、田植え・稲刈、サツマイモ掘り、シャボン玉、昔遊び、ミシンなどの学習支援をお手伝いしていただいた。また、毎月の草抜き等の環境整備にも協力していただいた。 ○評価が高かった項目であるが今後も学校全体で共通理解を図りながら、後手を踏むことのないように、きめ細やかな保護者対応を続けていく必要がある。また、各教員によって対応が変わらないよう温度差なく、対応をできるような一致団結する。 ○今までに本校が獲得した人脈や経験を今後も継続できるような各担当の引継ぎを的確に行う。また、各教員が学校・地域パートナーシップ事業に積極的に関わっていくことが必要である。
			学校は家庭との連携を適切に行っている。	保	82%	91%	↑8.8%	A		
		コミュニティ部の活動を取り入れ、保護者や地域人材と協働する。	保護者や地域の方々と協働することができた。	教	98%	98%	→0.2%	A		
	感染防止対策と学びの保障 [教務]	新型コロナウイルス感染防止対策を施し、限られた環境の中で工夫して指導する。	児童の安心安全を念頭に、感染防止対策を徹底しながら、児童生徒に必要な学習を工夫し、実施することができた。	教	95%	100%	↗4.7%	A	A	○4.7%上回った結果となった。 ○新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、様々な行事がもどに戻ってきたことも考えられる。 ○これまでの経験を生かした手洗い・換気徹底など感染対策をおこないながら、児童に必要な学びの両立に取り組む。